

須田dy4年生 すたでい

須田を豊かに！ 信濃川とともに

「身近な地域」の大切さに意識を向ける … ふりかえる つなげる

4年生の社会科学学習では、多くの人たちによって暮らしが支えられていることを、健康（水・ごみ）や安全（交通安全・防災）から学びます。それを受け、「前はどうかだったの？」と、昔の人たちの努力や工夫について「ふりかえる」とともに、より豊かな未来のくらしに「つなげる」アイデアを考え出します。これまでの学習は、次のとおりです。

信濃川を意識するために「ふりかえる」

家族など身近な人からの取材から始まった4年生の信濃川学習。「日本一長い川！」「昔は氾濫ばかり」「（でも）土がふかふかになって、美味しい果物ができる」等、過去にも目を向けた情報も集まりました。この活動の中から、「そういうえば、信濃川をちゃんと見たことってないかも」というつぶやきが！
身近すぎることは、大切さやよさを意識する上では、かえって「壁」にもなります。

信濃川と私たちの生活を「かかわらせる」

「大島頭首工と白根排水機場」は、全く正反対の役目だ！ 須田地区の農業用水にも使う水をくみ上げる「頭首工」。機械で雨を川に排水する「排水機場」。須田も含まれる「白根郷」の土地の低さとの関係や、施設の方から教えてもらいました。



大島頭首工の見学

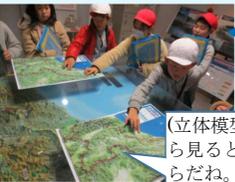
「須田の洪水との戦い」へ

… 学んだことを「つたえる」

「わかった（つもり）」から「伝える」へ

社会科「郷土の発展～洪水を防ぐために～」の学習で、大河津分水資料館に見学！信濃川につながっている大河津分水路が、須田地区も大水から守っているとあって、真剣に説明を聞く子供たち。

国語学習で身に付けた「メモの工夫」をフルに活用して、学習カードはびっしり！重要情報をゲット！



（立体模型を触って）空から見ると、新潟平野は平らだね。須田は……。

これは、大変だ300年に70回以上の大水が起きている！

「これは、自分たちが住んでいる土地に流れている川のことなんだ！」

資料集から、信濃川の氾濫回数に驚き、一反田や北潟の地名を見つけた子供たち。資料に自分たちの意識を引き寄せてきました。

パンフレットで「安全な須田」を発信！「つたえる」

「昔の人は、どうやって大水を防いだんだろう？」

「自分たちが住む須田で、みんなが、より安全に暮らせるために、自分たちにできることがあるとしたら、どんなことだろうか？」4年生の学びの足跡を、パンフレットでつたえる予定です。

【学習の流れ】（20時間）

- 須田にとっての信濃川って どんな川？
- 「大島頭首工」「排水機場」は何のため？
- 信濃川と須田 ～昔と今～
- より安全に暮らすために、できることは？
- 考えたことを、ポスターで伝えよう！

【須田dy（ふるさと・須田学習）】

4年生「須田を豊かに！ 信濃川とともに」



4年生がこれまで調べてきた地域の防災について、一枚のパンフレットにまとめ上げました。加茂市から配布された「加茂市洪水ハザードマップ」をもとに、「もしも」（主に大水）の時に避難する場所を子供たちは話し合いました。その際、社会科学学習と関連付け、須田地域で発生したこれまでの「大水の歴史」や、関係施設「大河津分水」について見学学習をしてきたことと関連づけながら検討しました。

「防災」というと、危険から身を守ることのみが強調されますが、もう一つの側面「恵み」についても複眼的に学習をしてきました。具体的には、負の「大水」が変えた須田の地形を、美田や果物作りを生かしてきた須田地域の先人たちの知恵に知恵についても触れています。

